

松本市市民活動

サポートセンター通信

NO.19

発行：松本市市民活動サポートセンター
〒390-0874 松本市大手3-8-13
松本市役所大手事務所2階
TEL/FAX：0263-88-2988
E-mail：support-center@support-center.jp
URL：http://www.support-center.jp



新年あけましておめでとうございます
本年もよろしくお祝い申し上げます



市民活動フェスタ2008 in 松本

「ヤングパワーで地域を変える！」を終えて



ステージ発表

12月14日(土)、市総合社会福祉センターで若者の社会参加促進とNPO次世代の育成を目的に、多くの高校生・大学生を含む約150人が参加して標記市民活動フェスタが開催された。

最初のステージ発表では、各自2分という限られた時間の中、活動紹介や感じたことや悩んでいること等自由に発表してもらった。エクセラン高校の武井公美さんは、「自分が知らなかったボランティア活動が聞けさらに関心が湧きました」と話してくれた。

また、サポートセンター登録団体等のブース展示や福祉施設の物品販売などもあり、学生が普段知る機会のない方々の話に耳を傾けるなど、世代を超えた交流も見られた。

今回は学生ボランティアたちの「しゃべり場」メンバーを中心に、有志の学生実行委員が運営や独自企画に関わり、そのひとつ「交流ディスカッション」では“小中学生にケータイは必要か必要でないか？”といった身近な問題や“選挙権を18歳に下げること賛成か反対か？”という若者にはあまり馴染みのない話題なども話し合われ、初めて出会った仲間とも活発な交流が行なわれた。学生実行委員として参加した信州大学4年の近藤友紀子さんは「今まで高校生と話したり何かをするという経験がなかったが、今回一緒に一つのものを作り上げることができ楽しかった」と話してくれた。今回、高校生や大学生が多数参加してくれたお陰で、世代を超えた賑やかなイベントになったと感謝している。(学生実行委員：信州大学3年 望月直樹)



交流ディスカッションの様子

今後は一般参加を増やす企画を盛り込んだり、登録団体による実行委員会を組織するなど、多くの市民に積極的に関わっていただけるような取り組みにしていきたいと思っております。(事務局)

「ファシリテーター養成講座」を受講して

今年度の講座は、基礎から学ぶ「初級編」と実際にテーマを設けて取り組む「中級編」で構成され、受講者が目的に合わせて選択できるようになっていました。講師は昨年度に引き続き、大町市を中心に地域づくりに取り組むNPO地域づくり工房代表の傘木宏夫さんで、ご自身の経験をまじえながら、実践に役立つ内容の講座でした。

“ファシリテーター”とは「中立的な立場でチームのプロセスを管理し、チームワークを引き出し、チームの成果が最大になるように支援する」役割を担う人を指すそうですが、昨今、地域社会の中で課題解決に取り組んでいる方々や団体から大変注目されているようです。今講座では、複雑な人間関係の中であって、適切なコミュニケーションを図るワークショップなども行なわれました。

この講座を通して、会議は説得し合う場ではなく、相互理解のためのコミュニケーションがとても

大切であること、そのためにファシリテーターは、まず参加者一人ひとりにテーマや課題に対して関心を持ってもらい、主体的に関われるように促す協働促進者に徹することが何よりも大切だと感じました。

また、多種多様な価値観を持った一人ひとりが、協働のあり方やそれをつなげていくファシリテーターの意義を理解し、対話により新たな発見や気づきが生まれ、よりよい活動に結びつけば、地域全体が元気になっていくのではないかと思います。

この講座は私にとって、いかにファシリテーターという役割が重要か痛感し、実践へのヒントをいただく良い機会となりました。

(NPO法人てくてく理事長 桑原美由紀)



このコーナーでは、サポートセンターに登録されている市民団体の方々をご紹介させていただいています。今回お話をうかがったのは、「特定非営利活動法人 川の自然と文化研究所」と「すがのっくる」の両団体です。

特定非営利活動法人

川の自然と文化研究所

川は古くから信仰の対象として宗教儀礼と深く関わり、地域生活と密着してきた。多くの古文書が天竜川を“天流川”と表記したことから川は「天」との関わりを体現する重要な存在であったに違いない。特に海のない長野県で川は地域の歴史や文化と深くつながり、つながっていく。川の自然と文化研究所は、そんな川を調べ地域文化との関係や成り立ちを考え提言するNPO法人である。理事長の信州大学名誉教授（動物生態学）吉田利男先生にお話をうかがった。

元来、長野の川の環境は非常に良好だった。例えば、女鳥羽川にはカジカガエルや漢方薬の材料になる孫太郎虫（ヘビトンボの幼虫）がすみ、明科では上海ガニの仲間モクズガニが生息し、奈良井川には昭和10年頃鮭が遡上していた。しかし氾濫被害が多く治水は近代化に必須の事業であった。そのため鮭は遡上できなくなり、女鳥羽川のカジカガエルも昭和49年の複断面河川改修工事により姿を消す。そこで松本市は昭和50年から3年間宮城県栗駒郡栗駒町のカジカガエルを分け

HP : <http://www.srnfc.org/>

E-mail : m-info@srnfc.org

てもらい放流した。その後、数年間は水汲橋、洞橋、原橋、一つ橋付近で鳴き声も聞こえたが、平成2年、7年の調査ではごく僅か確認されたのみである。また源智の井戸はじめ各所の湧水も多くの人に愛飲されているが、僅かずつ水質が悪くなっているようだ。良好な長野の水環境も徐々に悪化している。研究所は川に関する多くの調査を行い、現状を把握して提言（水理・エコロジカル・景観を考えた河川計画）を行うと共に、学童を対象とした観察会を開催している。将来はどんな団体を目指しているかとの質問に松井理事は、川に関わる団体や企業それら全体の仲立ちをし川をトータルにサポートする団体を目指しているとお答えいただいた。研究所のこれからの活躍を願ってやまない。



湧水・水路調査風景

おはなしグループ すがのっくる

おはなしグループ「すがのっくる」（平成13年結成）は、市内笹賀地区の母親有志で未就学児や就学児童を対象に「読み聞かせ」の会を開催するボランティア団体だ。「読み聞かせ」とは、単に本を朗読するのではなく、絵本などを開いて中身や挿絵を一緒に見ながら、語りかけるようにして楽しんでもらうことだが、実際には非常に多様な方法で展開され、全体を一言で表すのは難しい。読み聞かせの会を実際に拝見したところ大変盛況で、絵本の字面を追うだけでなく、聴衆の目線を意識しつつ間を持たせたり声の調子を変えたり、ツボを押さえた「読み聞かせ」を行なうのは非常に技術と経験を要すると感じた。代表の豊嶋さおりさんにお話をうかがった。

豊嶋さんはJPIC（ ）読書アドバイザーの資格をお持ちだが、経験を積むことでのみ学べる技術やコツの様なものがあるとおっしゃる。乳幼児相手には経験や直感が有用なのだそうだ。

「読み聞かせ」の歴史は明治29年に児童文学

JPIC：財団法人出版文化産業振興財団

連絡先 空港図書館：電話 0263（86）8460

空港図書館おはなしひろば 毎月第2水曜 11時～未就園児対象

者・巖谷小波が京都で行なった口演童話にさかのぼり、幼児教育家・岸辺福雄が理論と基礎を築いたと言われている。彼らを突き動かしたのは、おそらく幼児教育への熱意であったに違いない。「すがのっくる」も活動のモチベーションは「やはり子供達とのふれあいの時間が大きい」とのこと。活動は大変ですか、との質問に「子供たちから与えてもらうものの方が大きい」とのお答え。活動の意義の深さを垣間見せていただいた。今後の活動の展望については「現在の活動を長く続けること」と非常に控え目なお答えをいただき少し意外であった。活動の範囲を広げるより、長く続けていくことを重視されているようだ。子供たちとふれあい育むことに活動の本質を見た思いがし、大変印象深い一言であった。



クリスマス特別版おはなしひろば

松本市ボランティア交流集会!

松本市ボランティアセンターでは、「人と人とのつながりを大切に!」をテーマに、ボランティア・市民活動に関心のある皆さんが、支えあう地域を考え、交流する「平成20年度松本市ボランティア交流集会」を開催します。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

日時 平成21年2月7日(土) 12時から受付
場所 松本市総合社会福祉センター4階大会議室(松本市双葉4番16号 25-3133)
内容 開会 12時30分~

ステージ発表(ボランティア活動発表、演奏等)
ケ・セラ、乙女会、児童館・児童センター、安曇シニアボランティアの会、
SO(スペシャルオリンピック)その後の活動

参加型交流会

講演会

斉藤政喜さん(ペンネーム:シェルパ斉藤) 旧奈川村出身
旅やボランティアを通じて感じた人の温かさ、優しさ、人とのつながりの大切さ
について講演

参加費 無 料



【申し込み・問い合わせ】
松本市社会福祉協議会 ボランティアセンター
TEL 25-7311



研修参加報告「これからの公共を考える」

報告: 市民生活課協働推進係 尾崎 順

前号では、アメリカにおける公共の考え方についてお伝えしましたが、今号は、公共の担い手であるNPOを支えるボランティアについてのお話です。

NPOを支えるボランティア

アメリカでは、公共の担い手としてNPOが非常に大きな役割を果たしているが、そのNPOを支えているのが多くのボランティアだ。

例えば、裁判所の指名を受け虐待児童の社会適応を支援する「CASA for Children」では、約800人のボランティアが、家庭などで虐待を受けた児童のケアなど高度に専門的な活動にまで関わっている。また高齢者の配食サービスを提供している「Loaves and Fishes Center」では、毎日約450人が配達ボランティアとして参加している。地域の住民も多く参加しており、ボランティアの協力のおかげで、降雪などの悪天候時でも配達が滞ったことはないという。

アメリカ人の多くは、普段から何らかのボランティア活動に関わっているという。なぜアメリカではこのようにボランティア文化が根付いているのか? アメリカのボランティア活動を考える場合、まずはアメリカという国の成り立ちを考えなければならない。基本的には厳しい環境のなか様々な人種の人たちがお互いに助け合って、自らのコミュニティをつくりあげてきた国であるため、自分たちの住んでいるところは自分たちで良くしようとする考えが浸透しており、ボランティア活動は特別なことではなく当たり前のものとして捉えられている。またボランティアとは無理をせず、肩肘を張らずに楽しく活動するものとも考えている。

では日本のボランティアはどうか? アメリカに比べると、まだまだ社会貢献等に対して意識が高い一部の人たちだけが取り組んでいるという感じがする。しかし日本でも、地域において住民が助け合って支えあう生活をしてきた歴史があり、また災害時などには多くのボランティアが被災地支援のために駆けつけることなどを考えるとボランティア活動がもっと一般化する土壌は十分にあると思う。

今後日本でもNPOの役割がさらに大きくなっていくにしたがって、それを支える多くのボランティアが必要となってくる。アメリカではボランティアを楽しませようとする努力を多くのNPOがしているようだ。そのような取り組みにより、人々がボランティアに参加しやすくなり、参加者の裾野も広がっていくことにはなるのではないかと。

研修では、実際のNPO活動にボランティアとして参加させてもらったが、NPOにとってのボランティアの重要性とともにボランティアの楽しさを知る貴重な経験にもなった。

ポートランド市の公園等を管理する「Portland Park and Recreation」でのボランティア活動のようす





イベント情報等をお寄せください！

センター通信やホームページにて、皆さんのイベント情報や募集情報などをご紹介します。
多くの皆さんからたくさんの情報をお待ちしています。



限りなき義理の愛大作戦 2009

がんで苦しむイラクの子どもたち、医療支援を！

もうすぐバレンタイン！JIM-NET（日本イラク医療支援ネットワーク）は、この期間一口500円の募金をしてくださった方にチョコを差し上げます。

白血病の子どもたちの薬代は1日分約400円！イラクではがん、白血病の子どもたちが増えています。一口500円の募金で白血病の子ども1人の1日分の薬代になります。（100円は経費）

お申し込みは4口（2千円）を1セットとし、セット単位で承ります。

セット数に関係なく、配送手数料として一律100円を別途申し受けます。

チョコレートがなくなり次第キャンペーンは終了いたします。

申込み：TEL：03-5816-3721（10:00～19:00）

FAX：03-5816-3723（24時間）

E-mail：09giri@jim-net.net（24時間）

問合せ：JIM-NET（日本イラク医療支援ネットワーク）

東京事務所

TEL：03-6228-0746

E-mail：info-jim@jim-net.net

生ごみリサイクルフォーラム 水切りを考える

生ごみと上手につきあって家計と地球のエコに貢献しよう！

日時：2月28日（土） 12:00～15:30

会場：松本市勤労者福祉センター

内容：＜基調講演＞ 13:00～14:00

演題：生ごみの水切りにおける効果
～堆肥化を中心に～

講師：木村 真人さん

（名古屋大学大学院生命農学
研究科教授/土壌肥料学会元会長
/日本土壌微生物学会元会長）

＜実践例発表とディスカッション＞

14:10～15:30

テーマ：生ごみの取り扱い方と有効利用

＜展示＞ 12:00～15:30

生ごみ減量の取り組み&ごみ減量機器

参加費：無料

問合せ：松本市環境清掃課

TEL：0263-47-1096

FAX：0263-40-1335

長野県国際交流推進協会から・・・

～講座受講者の募集！～

日本語指導者養成講座

長野県に住む外国籍のみなさん、日本語を教えてみませんか？県内に暮らす外国籍の人たちのお手伝いをしてみませんか？

多文化共生の現場で活躍の方々が日本語指導法について、楽しく教えます！

日時：1月17日（土）から3月7日（土）までの土曜日

10:00～15:00まで 全20時間

（プログラムは現在調整中です。）

場所：松本市中央公民館

定員：30名ほど

会場に余裕がある場合、日本語ボランティアに参加してみたい日本人も受け入れます。

参加費：無料

その他：昼食は、各自でご用意ください。

医療通訳要請講座 基礎編

長野県に在住する外国籍の方が増えています。すべての方が安心して病院などで、治療や相談ができるように、母国語で通訳していただく医療通訳者を養成するための講座を開催します。

日時：1月22日（木） 10:30～16:00

場所：上田市中央公民館

講師：重野 亜久里さん

高嶋 愛里さん

定員：30名

参加費：無料

その他：昼食は、各自で用意してください。

問合せ：長野県国際交流推進協会

TEL：026-235-7186

FAX：026-235-4738

E-mail：mail@anpie.or.jp

編集後記

明けましておめでとうございます。おかげさまで当センターも開所以来4年目を迎えました。昨夏の耐震補強工事終了後は利用者も更に多くなり、会議室の予約も順調に埋まっています。外壁の工事がまだ完了していませんが、窓に掛かっていた幌が一部取り外され少し明るくなりました。

今年も明るい一年になりますように。